

証券コード 4023

KUREHA

株主の皆様へ

株式会社クレハ
KUREHA CORPORATION

クレハ レポート

第97期中間報告書

2009年4月1日から2009年9月30日まで

株式会社クレハ
KUREHA CORPORATION

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第97期中間期(2009年4月1日から2009年9月30日まで)の「クレハ レポート(第97期中間報告書)」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当中間期のわが国経済は、世界的景気後退に対応した各国金融・財政出動が奏功して、輸出に持ち直しが見られましたが、民間設備投資の抑制傾向は変わらず、個人消費は政策効果により下支えされた一部を除き、雇用悪化から冷込みが強まっています。

化学工業におきましては、在庫調整の一巡、中国等アジア向けの輸出回復により設備稼働率が上向いてまいりましたが、内需低迷に伴う製品価格引き下げ圧力が払拭されないなか、原燃料価格が再び上昇気配を見せるなど、厳しい状況が続きました。

当社およびグループ各社はこのような状況のもと、2012年度を最終年度とする新中期経営計画「中期経営計画GROW GLOBALLY(グローバル展開による成長)」の2年目である当期において、積極的な設備投資を行った事業の売上拡大、既存事業のコスト削減、事業環境変動に対応した戦略再構築に取り組んでおりますが、当中間期の連結売上高は前年同期比18.9%減の597億17百万円、営業利益は前年同期比91.0%減の5億23百万円、経常利益は前年同期比92.6%減の4億5百万円となりました。当期純利益につきましては、特別利益として事業再編に伴う株式売却益を計上いたしましたが、前年同期比99.5%減の11百万円となりました。

以上の状況のもと、当社は事業報告の「剰余金の配当等の決定に関する方針」に定めたとおり、利益配分は業績変動の影響はあるものの、安定的・継続的な配当を実施することが肝要と考えており、当期中間配当金は当初予定どおり、1株につき5円とさせていただきます。

当社は、新中期経営計画のもと、グループ一丸となって、グローバルな成長の実現と新規事業の着実な成果実現に向けてチャレンジし続け、経済・社会環境変化への適応、地球環境との調和をはかりながら、地球市民の一員として社会に貢献してまいります。また、CSR(企業の社会的責任)の考え方に基づいた事業運営を行い、企業価値を向上させ、経済の変動リスク、環境・資源リスク、市場変化や競争激化などの事業リスクを、機動的な決断と実行によって乗り越え、「エクセレント・カンパニー」を目指してまいります。



株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年12月

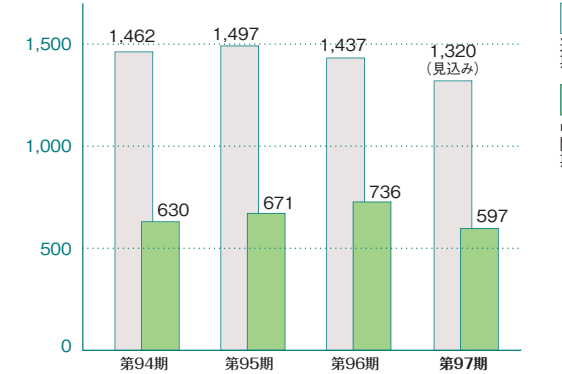
代表取締役社長
岩崎隆夫

KUREHA

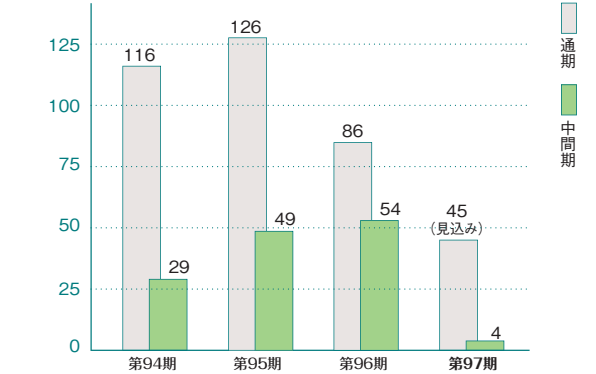
連結財務 ハイライト

	第94期 2006年度	第95期 2007年度	第96期 2008年度	第96期(前中間期) 2008年度	第97期(当中間期) 2009年度
売上高 (百万円)	146,255	149,775	143,741	73,649	59,717
営業利益 (百万円)	11,841	12,722	9,456	5,837	523
経常利益 (百万円)	11,682	12,661	8,650	5,470	405
当期純利益 (百万円)	5,832	6,096	3,373	2,102	11
総資産 (百万円)	196,106	187,349	182,224	195,298	181,904
純資産 (百万円)	107,349	104,582	97,074	104,885	97,584
自己資本比率 (%)	54.2	55.2	52.4	53.2	53.4
1株当たり当期純利益 (円)	31.58	33.39	18.75	11.65	0.06
1株当たり純資産額 (円)	578.09	572.24	533.45	576.39	542.09

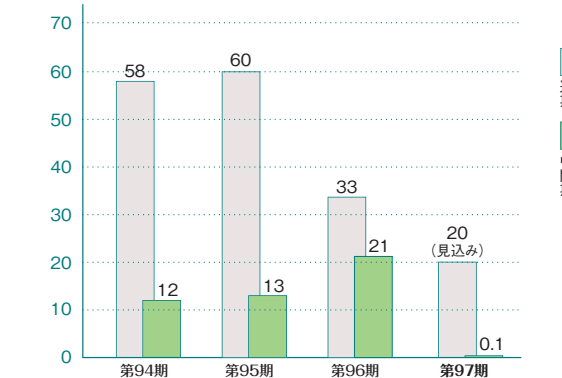
売上高(億円)



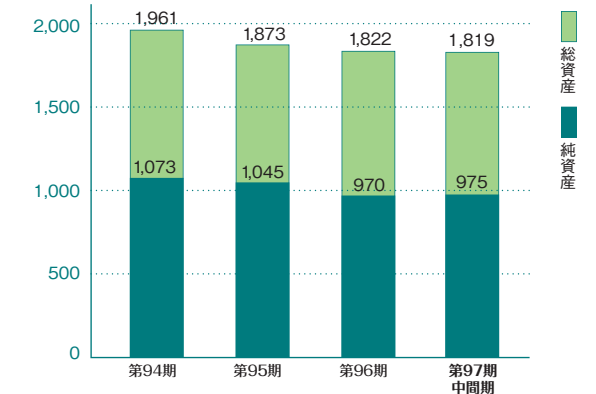
経常利益(億円)



当期純利益(億円)



総資産/純資産(億円)



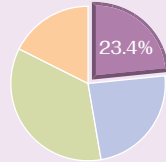
セグメント別営業の概況

機能製品事業

■当セグメントの売上高

当中間期(第97期) 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前中間期(第96期) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
---	---

13,998(百万円) 20,278(百万円)



■売上高構成比

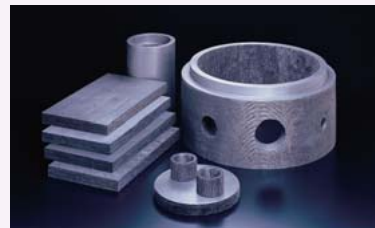
機能樹脂分野では、PPS樹脂は自動車用途および電気・電子素材用途の需要が減少し、特に米国における合弁事業の不振の影響が大きく、売上げ、営業利益ともに前年同期に比べ減少いたしました。

ふっ化ビニリデン樹脂は、リチウムイオン二次電池用バインダー用途および工業用素材用途の需要減少に加え、円高により、売上げ、営業利益ともに前年同期に比べ減少いたしました。

炭素製品分野では、球状活性炭は輸出が増加いたしました。炭素繊維は太陽電池パネル製造用等の高温熱処理炉用断熱材用途の需要が落ち込んだうえ、円高および設備投資に伴う償却費が増加し、この分野の売上げ、営業利益ともに前年同期に比べ減少いたしました。

なお、前期まで連結子会社でありました加古川プラスチック(株)(2009年10月1日付け東レKPフィルム(株)に社名変更)の株式の一部を第1四半期末に売却し、同社を当第2四半期から持分法適用関連会社に変更したことにより、電気・電子素材用途向けの金属蒸着フィルムは、前年同期に比べ売上げ、営業利益ともに減少いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前年同期比31.0%減の139億98百万円となり、営業損益は前年同期13億77百万円の営業利益から9億11百万円の営業損失となりました。



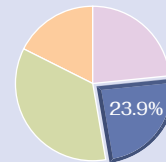
炭素繊維製成形断熱材

化学製品事業

■当セグメントの売上高

当中間期(第97期) 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前中間期(第96期) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
---	---

14,248(百万円) 17,419(百万円)



■売上高構成比

医薬・農業分野では、慢性腎不全用剤「クレメジン」は前年同期に比べ売上げが減少、抗悪性腫瘍剤「クレスチン」は売上げが増加、農業・園芸用殺菌剤「メコナゾール」は輸出の減少とともに円高ユーロ安により、この分野の営業利益は前年同期に比べ減少いたしました。

工業薬品分野では、カ性ソーダ・塩酸等の無機薬品類は製品価格が上昇したものの、クロルベンゼン類は製品価格が下落し、両製品ともに販売数量が減少したことにより、この分野の売上げ、営業利益ともに前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前年同期比18.2%減の142億48百万円となり、営業利益は前年同期比61.2%減の11億41百万円となりました。



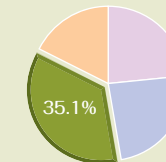
農業・園芸用殺菌剤「メコナゾール」

樹脂製品事業

■当セグメントの売上高

当中間期(第97期) 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前中間期(第96期) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
---	---

20,978(百万円) 22,754(百万円)



■売上高構成比

コンシューマー・グッズ分野では、家庭用ラップ「NEWクレラップ」は改良された商品価値を反映する市場価格形成に注力いたしましたが、ふっ化ビニリデン釣糸「シーガー」とともに売上げは微減となり、資材費上昇もあって、この分野の営業利益は前年同期に比べ減少いたしました。

業務用食品包装材分野では、国内については、塩化ビニリデン・フィルム、熱収縮多層フィルム、ラミネート用ハイバリア・フィルム「ベセーラ」、多層ボトルの売上げは微減となり、また、欧州子会社では前年同期を上回る販売実績となったものの、円高ユーロ安により、この分野の営業利益は前年同期に比べ減少いたしました。

包装機械は国内において前年同期にクリップレス自動充填結紮機の大口出荷があり、中国向けの塩化ビニリデン・コンパウンドは売上げが増加したものの、円高および他製品全般の生産量減少による固定費負担が増加し、両製品ともに営業利益は前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、本セグメントの売上高は前年同期比7.8%減の209億78百万円となり、営業利益は前年同期比28.4%減の8億29百万円となりました。



ふっ化ビニリデン釣糸「シーガー」

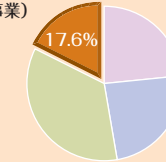
その他事業

(左記に属さないグループ会社の事業)

■当セグメントの売上高

当中間期(第97期) 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前中間期(第96期) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
---	---

10,491(百万円) 13,196(百万円)



■売上高構成比

環境関連分野では、景気後退による経済活動の停滞により産業廃棄物の発生量が大幅に減少したことおよび同業他社との競争激化を受け、前年同期に比べ売上げは大幅に減少し、処理費等変動費の減少と補修費、支払手数料等の固定費の削減に努めましたが、営業損失となりました。

建設関連分野では、工事進行基準の適用による売上げの増加はあったものの、前年同期での大型プラント建設の完工を補うまでには至らず売上げは減少し、資材費高騰および設備投資の減少に起因する受注競争の激化が利益率の悪化を招き、営業利益は大幅に減少いたしました。

運輸・倉庫関連分野では、運送部門での輸送量減少、競争激化を受け、前年同期に比べ売上げは大幅に減少いたしました。経費削減に努めた結果、営業利益は前年同期並みとなりました。

この結果、本セグメントの売上高は前年同期比20.5%減の104億91百万円となり、営業損益については前年同期6億62百万円の営業利益から2億89百万円の営業損失となりました。



クレハ建設(株)施工ショッピングモール

財務諸表(連結) 2009年9月30日現在

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表 金額(百万円)

科目	資産の部	
	当中間期(第97期) 2009年9月30日現在	前中期(第96期) 2009年3月31日現在
流動資産		
現金および預金	7,480	7,264
受取手形および売掛金	24,668	30,137
有価証券	—	5
商品および製品	15,862	17,773
仕掛品	3,475	2,005
原材料および貯蔵品	5,202	5,962
その他	8,711	5,597
貸倒引当金	▲139	▲154
流動資産合計	65,261	68,592
固定資産		
有形固定資産		
建物および構築物(純額)	28,199	26,930
機械装置および運搬具(純額)	25,785	25,113
その他(純額)	23,661	25,320
有形固定資産合計	77,645	77,363
無形固定資産	882	1,108
投資その他の資産		
投資有価証券	21,965	18,678
その他	16,590	16,975
貸倒引当金	▲440	▲494
投資その他の資産合計	38,115	35,159
固定資産合計	116,643	113,631
資産合計	181,904	182,224

科目	負債の部	
	当中間期(第97期) 2009年9月30日現在	前中期(第96期) 2009年3月31日現在
流動負債		
支払手形および買掛金	14,846	18,228
短期借入金	17,358	17,353
未払法人税等	1,141	1,216
賞与引当金	2,173	2,224
役員賞与引当金	26	64
その他	11,378	13,349
流動負債合計	46,924	52,436
固定負債		
社債	15,000	15,000
長期借入金	15,439	11,680
退職給付引当金	2,021	2,047
役員退職慰労引当金	327	432
その他	4,606	3,552
固定負債合計	37,395	32,713
負債合計	84,320	85,149

純資産の部		
株主資本		
資本金	12,460	12,460
資本剰余金	9,948	10,013
利益剰余金	71,962	72,779
自己株式	▲1,251	▲1,265
株主資本合計	93,119	93,988
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,525	3,756
繰延ヘッジ損益	▲1	▲5
為替換算調整勘定	▲1,506	▲2,165
評価・換算差額等合計	4,017	1,586
新株予約権	41	47
少数株主持分	406	1,452
純資産合計	97,584	97,074
負債・純資産合計	181,904	182,224

連結損益計算書 金額(百万円)

科目	連結損益計算書	
	当中間期(第97期) 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前中間期(第96期) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
売上高	59,717	73,649
売上原価	44,957	52,992
売上総利益	14,759	20,657
販売費および一般管理費	14,235	14,819
営業利益	523	5,837
営業外収益	792	801
営業外費用	910	1,168
経常利益	405	5,470
特別利益	349	138
特別損失	413	1,802
税金等調整前当期純利益	341	3,806
法人税等	381	1,752
少数株主損失(加算)	▲51	▲49
当期純利益	11	2,102

連結キャッシュ・フロー計算書 金額(百万円)

科目	連結キャッシュ・フロー計算書	
	当中間期(第97期) 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前中間期(第96期) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,440	3,386
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲7,984	▲8,419
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,738	4,464
現金および現金同等物に係る換算差額	78	81
連結範囲の変更による 現金および現金同等物の減少額	▲56	—
現金および現金同等物の増減額	215	▲487
現金および現金同等物の期首残高	7,264	6,120
現金および現金同等物の期末残高	7,480	5,633

主な連結対象会社 (2009年9月30日現在)

連結子会社数：33社
持分法適用会社：2社

■機能製品事業(全9社)

レジナス化成(株)
クレハ エクステック(株)
日本エクストロン(株)
クレハ GmbH[ドイツ]
クレハ・アメリカINC.[アメリカ]
クレハ・アドバンスド・マテリアルズINC.[アメリカ]
クレハ・ビージーエーLLC[アメリカ]
上海呉羽化学有限公司[中国]

[持分法適用会社]
加古川プラスチックス(株)
(2009年10月1日に社名を
東レKPフィルム(株)に変更)

■樹脂製品事業(全9社)

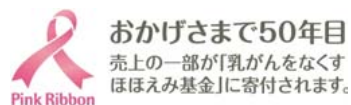
クレハプラスチックス(株)
クレハ合繊(株)
クレハロン・インダストリーB.V.[オランダ]
クレハ・ヨーロッパB.V.[オランダ]
その他4社

[持分法適用会社]
南通匯羽豊新材料有限公司[中国]

■その他事業(全17社)

(株)クレハ環境
(株)クレハ分析センター
(株)クレハエンジニアリング
クレハ錦建設(株)
クレハ運輸(株)
錦商事(株)
クレハサービス(株)
クレハスタッフサービス(株)
その他9社

2009年度グッドデザイン賞で「NEWクレラップ」がダブル受賞!



家庭用ラップ「NEWクレラップ」は、2009年度グッドデザイン賞(財団法人日本産業デザイン振興会主催)で、グッドデザイン賞およびグッドデザイン・ロングライフデザイン賞をダブル受賞いたしました。グッドデザイン・ロングライフデザイン賞は10年以上にわたり、同一のコンセプトを継承し、販売され続けているなどの条件を満たしている商品を対象に審査されます。

「クレラップ」は、1960年に日本初の家庭用ラップとして発売され、今年で50年目を迎えました。今後もお客様の声に真摯に耳を傾け「誰にでも使いやすいラップ」、「最後まで安心して使えるラップ」になるよう、「NEWクレラップ」の carton およびフィルムの改良を継続し、引き続きお客様満足度の向上に努めてまいります。また、永年のご愛顧への感謝として「NEWクレラップ」の売上げの一部を「乳がんをなくすほほえみ基金」に寄付しております。

<環境活動> ヤマメの放流



いわき事業所(福島県いわき市)のそばを流れている^{びんだがわ}蛭田川。7月3日、「蛭田川とその周辺をきれいにする会」によって、約1,000匹のヤマメの稚魚が放流されました。同会は河川環境を守り、向上させる活動を行っており、当社のいわき事業所も10年前からこの活動に協力しています。

当日はいわき事業所の従業員、近隣の勿来幼稚園の園児も参加し、体長約10センチのヤマメを蛭田川に放しました。当社は地球市民として企業の社会的責任を十分認識し、地域と一体となって環境意識を育む活動にも取り組んでおります。

会社の概要 (2009年9月30日現在)

商号	株式会社クレハ
本店	東京都中央区日本橋浜町3-3-2
設立	1944年6月21日
資本金	12,460百万円
グループ従業員数	3,905名(単独:1,322名)

事業所 (2009年9月30日現在)

支店	大阪支店
営業所	名古屋営業所、福岡営業所、仙台営業所
事業所	いわき事業所(福島県いわき市)
研究所	総合研究所(福島県いわき市) 生物医学研究所(東京都新宿区) 加工商品研究所(茨城県小美玉市)

取締役・監査役・執行役員(2009年9月30日現在)

取締役会長(取締役会議長)	田中 宏
代表取締役社長(経営会議議長)	岩崎 隆夫
代表取締役専務執行役員	萩野 弘二
代表取締役専務執行役員	鈴木 直哉
取締役専務執行役員	宗像 敬吉
取締役常務執行役員	小林 豊
取締役常務執行役員	佐川 正
取締役常務執行役員	須能 則和
独立社外取締役	斉藤 邦彦
独立社外取締役	高橋 武

常勤社外監査役(監査役会議長)	平野 恭昌
常勤監査役	亀山 裕通
常勤監査役	阿久根 豊
社外監査役	木村 和俊

専務執行役員	藤井 雅彦
専務執行役員	重田 昌友
常務執行役員	宮守 保
常務執行役員	紫垣 由城
執行役員	蛭田 宣行
執行役員	砂川 和彦
執行役員	渋谷 幸広
執行役員	福沢 直樹
執行役員	国井 英一
執行役員	上田 直毅

当社の概要は、Webサイトでもご覧いただけます。

<http://www.kureha.co.jp/>

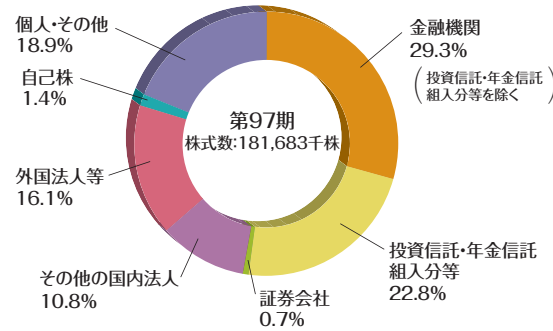


当社Webサイトに「個人投資家のみなさまへ」を開設しております。身近にあるクレハ製品や、業績の概況についてご説明しておりますので、ぜひご覧ください。

「TOPページ」→「投資家情報」→「個人投資家のみなさまへ」
<http://www.kureha.co.jp/ir/personal/index.html> からご覧ください。

株式の概況

株式の所有者別構成比 (2009年9月30日現在)



株式の状況 (2009年9月30日現在)

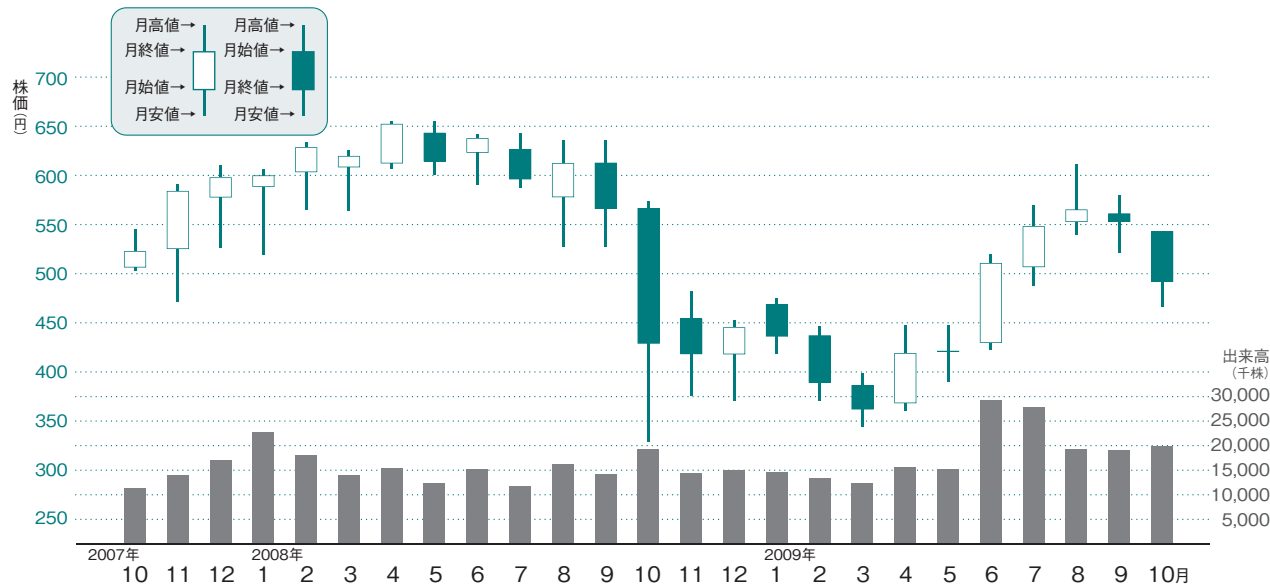
発行可能株式総数 600,000,000株
発行済株式の総数 181,683,909株
株主数 15,992名

大株主の状況 (2009年9月30日現在)

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,919	9.4
明治安田生命保険相互会社	13,746	7.6
東京海上日動火災保険株式会社	13,368	7.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,727	6.5
第一三共株式会社	5,830	3.2
ジュニーバー(サウジアラビア)	4,132	2.3
株式会社みずほコーポレート銀行	4,000	2.2
株式会社損害保険ジャパン	3,359	1.8
オーエム04エスエスピークライアントオムニバス(オーストラリア)	3,243	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	2,819	1.5

注)出資比率は、自己株式(2,493千株)を控除して計算しています。

株価および出来高の推移



株主メモ

決算期 3月31日
定時株主総会 6月
株主確定基準日

・定時株主総会/期末配当 3月31日
・中間配当 9月30日
・その他必要がある時は、取締役会の決議によってあらかじめ公告します。

公告方法

当社のWebサイトに掲載します(<http://www.kureha.co.jp/ir/koukoku.htm>)。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人
同事務取扱場所
お問い合わせ先

東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	
	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。	

(1)単元未満株式の買取・買増請求制度について

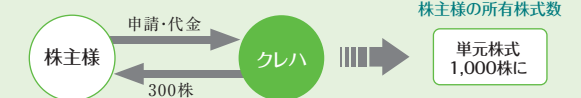
当社の単元未満株式(1,000株に満たない株式)につきましては、端数となっている株式を整理できる制度(買取請求、買増請求)を導入しております。お手続き方法などは、証券会社に口座をお持ちの場合、お取引先の証券会社へお申し出ください。特別口座に保有されている場合、特別口座を管理しているみずほ信託銀行までお問い合わせください。

例 株主様が700株をご所有の場合

【買取請求のケース】



【買増請求のケース】



(2)特別口座に記録されている株式の売却について

特別口座に記録された株式は、そのままのご売却はできません(単元未満株式を除く)。証券会社に取り引口座を開設し、特別口座から証券会社の取引口座へ株式の振替を行うことをご売却の手続きができるようになります。

特別口座に関するお問い合わせ先:みずほ信託銀行 証券代行部

フリーダイヤル 0120-288-324

特別口座とは、株券電子化までに証券会社等の口座にて管理されていなかった株式のために開設された口座です。